南アルプス市　平成　24　年度

事務事業マネジメントシート
（兼）予算編成資料・実施計画資料

作成日 H　25　年　3　月　19　日作成

事務事業名	市単土地改良事業 ☐ 実施計画事業	所属部局	農林商工部
		単位番号	6181
		所属課室	農林土木課
		課長名	深澤計佐吉
		所属担当	農林土木担当
		担当者名	小宮山　勝己
基本政策	基本計画体系 Ⅱ　にぎわいと活力あふれる都市づくり	予算科目	会計 01　名称 一般　款 06　項 01　目 05　細目 020　細々目 01
政　策	07　農林水産業の振興	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業　☑ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業　☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業　☐ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金
施策	12　生産を支える基盤の整備充実		
事業期間	☐ 単年度のみ　☑ 単年度繰返　（開始年度　　年度） ☐ 期間限定複数年度　（　　～　　年度）	法令根拠	土地改良法

事務事業の概要

事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載

1. 事業の目的
　市内全域の農業用施設の維持、修繕を行い、延命化による農産物の生産向上を図る。
2. 事業内容
　農業用施設（地域要望等）の点検結果により発生した修繕箇所に対し、請負及び直営等により施工する。。

事業費の主な内訳　（　24年度　決算見込　）

項目（細節）	金額（千円）	項目（細節）	金額（千円）
臨時職員賃金	1,644	工事・補修用原材料費	1,396
光熱水費	1,240	補償費	685
修繕料	11,346		
施設維持管理委託料	829		
機械及び車両借上料	942	計	18,082

1　現状把握（DO）

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動

24年度活動実績	農業用施設維持管理委託・農道、農業用排水路維持補修
25年度活動予定	農業用施設維持管理委託・農道、農業用排水路維持補修

② 対象（この事務事業は誰、何を対象にしているのか）＊人や自然資源等

農業用施設

③ 意図（この事務事業により対象をどのような状態にしていくのか、どのように変えるのか）

適正な機能の保全

④ 上位目的（どのような結果に結び付けるのか）

農業施設の延命化

⇒

⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）数字は記入しない

	名称	単位
ア	農業用施設の点検	回
イ	修繕箇所	件
ウ		

⇒

⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）数字は記入しない

	名称	単位
ア	農業用施設	件
イ		
ウ		

⇒

⑦ 成果指標（対象における意図の達成度を表す指標）数字は記入しない

	名称	単位
ア	機能点検	回
イ		
ウ		

⇒

⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）数字は記入しない

	名称	単位
ア	修繕箇所	件
イ		

(2) 事業費・指標の推移

			単位	23年度（決算・実績）	24年度（決算見込・実績）	25年度（予算・目標）	26年度（次年度計画・目標）	27年度（計画・目標）	28年度（計画・目標）	最終　年度（トータルコスト・目標）
年間トータルコスト	事業費 財源内訳	国庫支出金	千円							
		県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円	217	75	1	1	1	1	
		一般財源	千円	19,096	19,183	18,108	17,999	17,999	17,999	
	事業費計（A）		千円	19,313	19,258	18,109	18,000	18,000	18,000	0
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2	
		延べ業務時間	時間	1,920	1,920	1,920	1,920	1,920	1,920	
		人件費計（B）	千円	7,607	7,607	7,607	7,607	7,607	7,607	0
	(A)+(B)		千円	26,920	26,865	25,716	25,607	25,607	25,607	0
活動指標	ア		回		2.0					
	イ		件		33.0					
	ウ									
対象指標	ア		件		33.0					
	イ									
	ウ									
成果指標	ア		回		2.0					
	イ									
	ウ									
上位成果指標	ア		件		33.0					
	イ									

(3)この事務事業を取り巻く状況（対象者・社会状況等）の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	合併前から、農業用施設維持管理のため。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べどう変化しているか？また、今後の予測は？	施設の老朽か進行し、補修が必要な箇所・苦情の増大による現場確認、事務量の増加が見込まれる。
③ 事務事業に対して関係者（市民、事業対象者、議会等）からどんな意見・要望が寄せられているか？	施設の老朽化による修繕要望の増加により、早期の修繕を求められている。。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☑ 取り組みしている　⇒【内容↓】　☑ 取り組みしていない ⇒【理由↓】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過（取り組みしていない場合はその理由）	増え続ける修繕要望と予算の調和が保てるように、優先度を判定する。
③ H 24年度に実施した改革改善の内容	修繕要望の内容を精査し、優先度を判定し修繕を行なっている。

事務事業名	市単土地改良事業	所属部	農林商工部	所属課	農林土木課

2 評価（Check1）担当者による事後評価（複数年度事業は途中評価）

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない（見直し余地がある） ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価（Check2）・4今後の方向性に反映 ☑ 結びついている ⇒【理由↓】 適正な機能保全により生産を支える基盤の整備につながる。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価（Check2）・4今後の方向性に反映 ☑ 妥当である ⇒【理由↓】 農業用施設は、公共施設のため市で管理しなければならない。 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。☐ 民間・NPO ☐ 市民協働
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価（Check2）・4今後の方向性に反映 ☑ 適切である ⇒【理由↓】 妥当である。見直す必要はないと思う。
有効性評価	④ 成果の向上余地 今後さらに事務事業の成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価（Check2）・4今後の方向性に反映 ☐ ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価（Check2）・4今後の方向性に反映 ☑ 向上余地がない ⇒【理由↓】 予算内で実施しているので、向上余地がない。
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☑ 類似事務事業がある ⇒（類似する事務事業の名称を記入↓） ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価（Check2）・4今後の方向性に反映 ☑ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☐ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☑ 影響なし ☐ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 地域からの修繕要望が多いため。農道、農業用排水路の受益者の農業作業に影響がある。 ☐ 休止・廃止ができる ☐ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】
効率性評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費（コスト）を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価（Check2）・4今後の方向性に反映 ☑ 削減余地がない ⇒【理由↓】 地域からの修繕要望が多く現予算では、対応できない箇所もあるため。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げず人件費を削減できないか？（事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？）	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価（Check2）・4今後の方向性に反映 ☑ 削減余地がない ⇒【理由↓】 一人の職員が幾つかの事業を担当し、また、必要最小限の時間で行っているので人件費の削減は難しい。
公平性評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価（Check2）・4今後の方向性に反映 ☑ 公平・公正である ⇒【理由↓】 土地改良事業（工事）を実施したすべての地区から、受益者負担金を取っている。

3 評価（Check2）担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果			(2) 1次評価の総括（事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について）
① 目的妥当性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり	国・県等の補助金事業は、改定により、現状の改修工事に対応できるものが無くなってしまっている。今後は、新しい補助事業（交付金事業）等を探し出し、要望を受けている道路改修・水路改修に対応していきたい。また、市の単独事業も検討し、緊急性等を考慮して事業化し、財政担当に働きかけ予算化をし、事業をを行いたい。
② 有効性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり	
③ 効率性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり	
④ 公平性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり	

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事務事業の方向性（Check1の結果から定める）・・・複数選択可

- ☐ 廃止（目的妥当性①、②、③の結果）
- ☑ 事業統合・連携（有効性⑤の結果）
- ☐ 公平性改善（公平性⑨の結果）
- ☐ 休止（目的妥当性①、②、③の結果）
- ☐ 成果向上（有効性④の結果）
- ☐ 現状維持（全評価項目で適切）
- ☐ 必要性検討（目的妥当性①、②、③の結果）
- ☐ コスト削減（効率性⑦、⑧の結果）

(2) 改革改善案について

①予算の確保
②補助事業の確保
③農道・市道の見直し

(3) 改革・改善による方向性

		コスト水準		
		削減	維持	増加
成果水準	向上	☐	☐	☐
	維持	☑	☐	
	低下	☐		

※ 廃止・休止の場合は記入不要

(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策

①要望の内容を検討し、優先順位を決めて改修を行う
②事業仕分け
③

(5) 事務事業優先度評価結果

成果優先度評価結果	⑩
コスト削減優先度評価結果	③